

1914 年秋田仙北地震と秋田県師範学校*

北海道大学 名誉教授 鏡味 洋史

秋田大学 地方創生センター 水田 敏彦

1. はじめに

1914 年秋田仙北地震は図 1 に示すように、内陸の秋田県仙北郡を震源とする、M=7.1 の地震で、震央から約 35 km 離れた秋田市内でも負傷 3、全壊 3、半壊 3 の被害を生じた。なかでも秋田鉱山専門学校では 1 年前竣工のレンガ造校舎が大破するなど大きな被害を生じた。筆者らは文献調査を行い、同校の被害の詳細を明らかにした¹⁾。同校は秋田市街地に隣接する田圃の埋立地に新設され、南隣には秋田県師範学校も移転しており、同地震で被災している。本論では、秋田県師範学校に着目し 1914 年秋田仙北地震との関わりについて文献調査を行う。

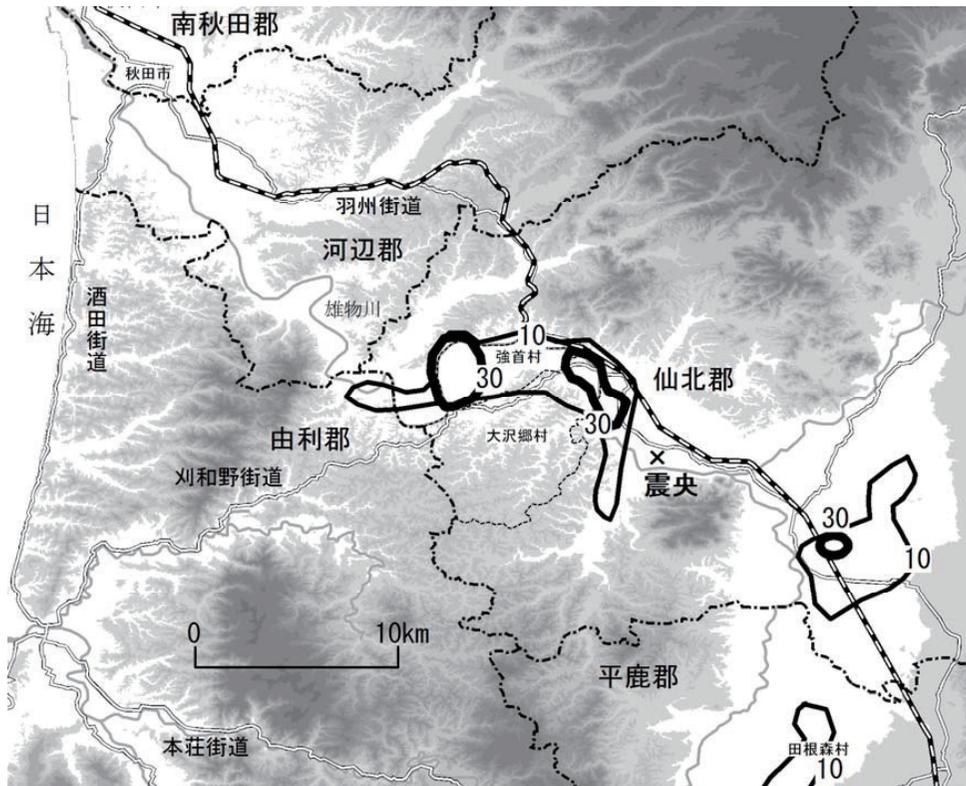


図 1 1914 年秋田仙北地震の被害分布と秋田市 (数字は住家全潰率%)

*The 1914 Akita Senboku earthquake and Akita Prefectural College of Education by Hiroshi Kagami and Toshihiko Mizuta

2. 秋田県師範学校の沿革と手形キャンパス

前身は1873年創設の伝習学校まで遡り1886年に秋田県師範学校として旧藩校の所在地東根小屋町（現：中通）に開校，1909年女子師範学校を分離し男子校となった秋田師範学校は南秋田郡旭村手形字深田に移転した。同地は1909年5月に造成を始め1909年12月には秋田市に編入されている。1913年10月には手形新校舎が完成し落成式が行われたが，翌年の1914年3月には秋田仙北地震で被災している。

1949年には新製の秋田大学学芸学部（現：教育文化学部）にキャンパスとも継承され現在に至る。図2は1912年測量の2万5千分の1の地形図で，手形地区の造成地に練兵場，鉾山学校，師範校が記載されている。同校の敷地の南北には低平な水田が広がっている。



図2 1912年測図の秋田市の地形図と手形地区の造成地（1912年測量1：25,000地形図）

3. 文献調査

秋田仙北地震関係の文献から秋田県師範学校に関する記載のあるものを以下に示す。

秋田県簿冊：大正3年震災関係書類老庶務課²⁾：秋田県公文書館に保管されており，その中に秋田県師範学校関係の書類が残されている。被害に関しては集計表の中で秋田県師範学校の被害額は建物1779円，書籍器械229円，備品70円であり，書籍器械，備品等については個別の詳細な調査一覧表がある。3月22日には生徒を震災地に派遣しており，経費の申請，復命書が残されている。

新聞記事：秋田魁新報には秋田県師範学校に関して，次の2件の新聞記事が掲載されている。

【3月16日号外2面】▲県立学校の薬品 各県立学校の理化学器械薬などの破損夥し又師範中学土蔵に破損又は亀裂せるもの多し【3月20日3面】○師範生の視察 師範学校生徒は試験休

みを利用して22日震災地を視察し尚見学の為土工手伝を為すといふ。

秋田県師範学校関連図書：秋田県師範学校の記念誌「創立60年，秋田県師範学校」³⁾の年表には『大3年（1914）1月15日：午前4時58分強震あり本校も多少の震害を被れり，大3年8月28日：震災復旧工事竣工せり』が掲げられている。卒業生の回想文集が掲載されているが，在学中に地震に遭遇し記載のあるのは「大正3年（1914）卒業 村上善彦：思い出づる儘に」のみで『卒業の年の3月には強首の大地震に見舞はれて，跳飛んで外に出た刹那，鉾山学校の大煙突が折崩れて物凄い光景であった。私は〔中略〕取急ぎ高師入学の旅路に上つた。其の時は，未だ線路が曲がって居て徐行して通つた位だ。』と体験談を記している。

震災予防調査会報告：大橋良一「大正3年ノ秋田地震ニ就テ」⁴⁾では師範学校の土蔵の内壁に生じた亀裂について写真を用い説明している。

佐々木金一郎「大震の記」：著者の佐々木金一郎は地震当時師範学校3年生で同校の寄宿舎で地震を体験している。同氏は卒業後小学校教諭・校長を歴任し，郷里の田根森（現：横手市）の村長を務め，郷土史家として秋田県史の編さんに関わっている。同氏の日記「大地震の記」では地震の体験談を述べるとともに，地震に関して新聞記事などから学んだことを細かに記録している。日記を所蔵している秋田県立博物館の畑中康博は「佐々木金一郎「大地震の記」」⁵⁾で全文の翻刻を掲載し，日記の構成について議論している。

4. 秋田県師範学校の被災状況

被害は土蔵に亀裂が入る程度であり，詳細は大橋の論文に『予は秋田市内各所に於て亀裂を検し一好例を得たり，即ち秋田県師範学校の土蔵の内壁に生ぜしものにして，第14版第1図に見るが如く，壁は正しく南北に走り，北上より南下に走る圧迫亀裂，南上より北下に走れるは緊張亀裂なること一目瞭然たるべし。』と写真（図3）入りで示している。師範学校に被害があったことは新聞記事（秋田魁新報16日号外2面）にも取り上げられているが詳細は報じられていない。また，学校の記録では復旧工事が8月28日に竣工している。秋田鉾山専門学校で大破の被害の生じたのはレンガ造の実験棟で木造校舎の被害は軽微であった¹⁾。木造校舎が主体であった秋田県師範学校での被害は同様に軽微であったものと思われる。

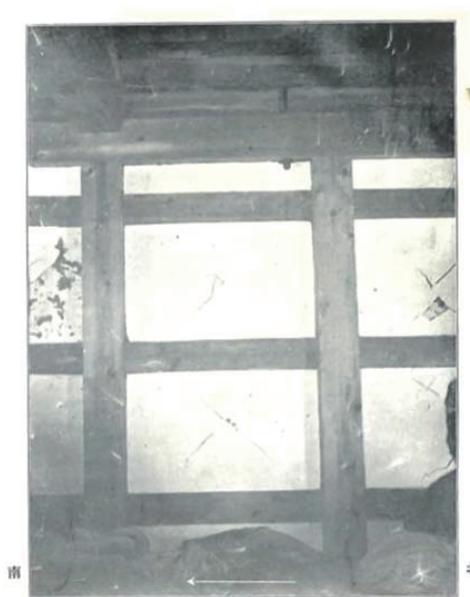


図3 秋田県師範学校土蔵の被害，対角線のヒビ（大橋⁴⁾による）

5. 秋田県師範学校生徒の活動

生徒の被災地派遣は3月22日に実施されており、生徒10名、引率教諭1名、炊夫1名で強首村、布又の震源地方面に2泊3日で行かっている。引率教諭兼舎監の白坂高重の「災害地出張記録」²⁾によれば、

3月22日：

6時50分秋田発、

正午強首村役場着、郡書記と協議、小学校、民家前に天幕、1名を役場に分遣し文書の調整、

17時半修業、九升田石川理紀之助出張所にて自炊

3月23日：2名役場で事務、卒業生、在校生の家庭訪問、

13時半強首村出発、大沢郷村布又の岩石崩壊状況見学、21時帰宿

3月24日：5時より6時まで九升田村の方法を聴取、

午前中役場事務に従事

と、ある。石川理紀之助は明治・大正期の秋田県の農業指導者であり、1912年に疲弊した強首村九升田の救済事業に着手し、九升田に石川理紀之助出張所を開設していた⁶⁾。一行は、ここで自炊し宿所になっている。

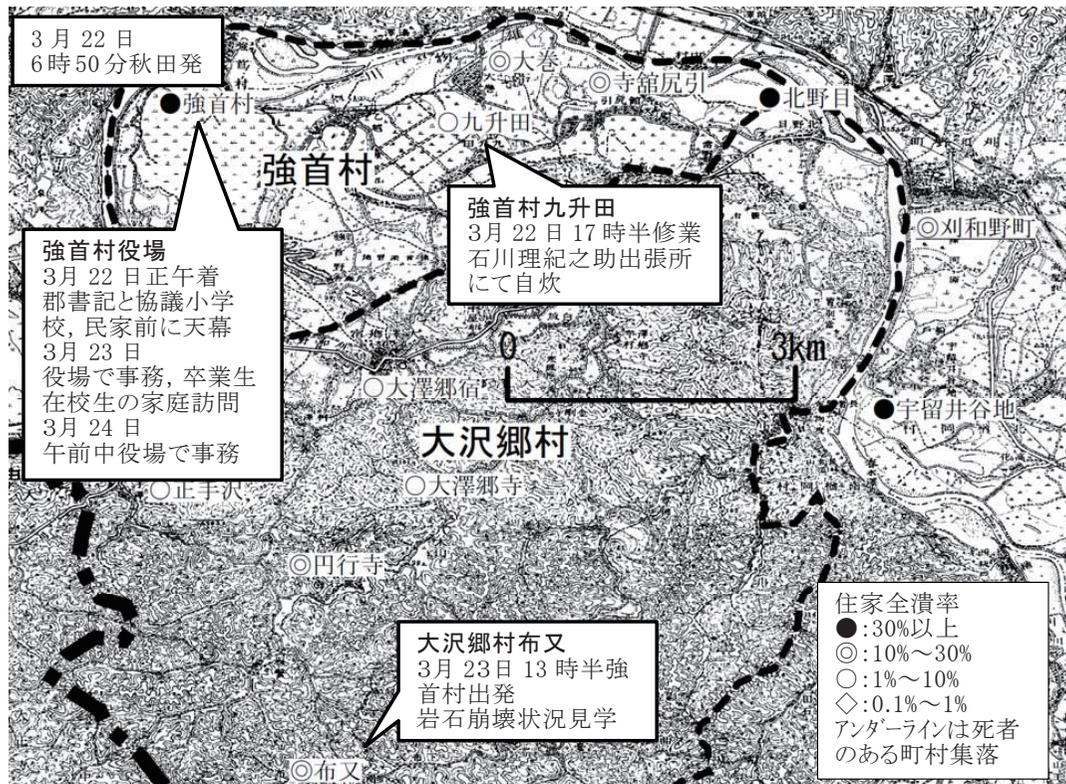


図4 秋田県師範学校生徒の被災地派遣

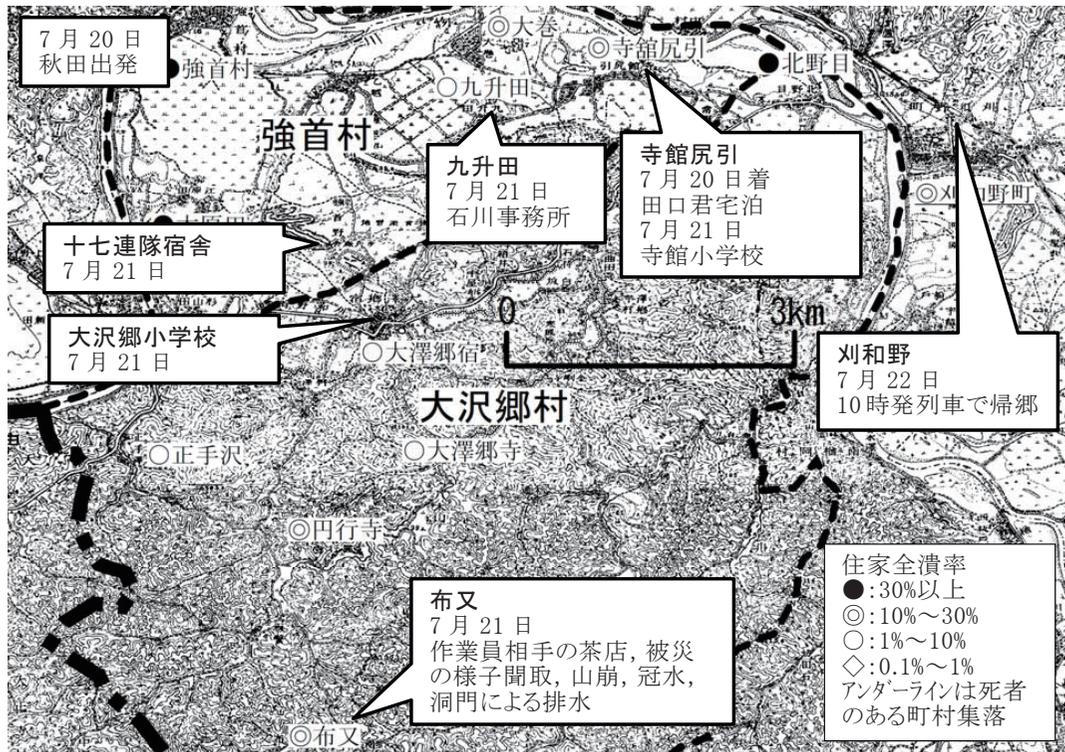


図6 佐々木金一郎による激震地の視察先（7月）

7. まとめ

小論では1914年秋田仙北地震と秋田県師範学校との関わりを文献で追ってみた。文献調査は秋田県簿冊、新聞記事、学校関係史料、学術雑誌を調査した。秋田県師範学校は秋田鉱山専門学校と同時期に水田埋立地に新設された敷地に開校した学校で、秋田鉱山専門学校と同様に地震による被害を受けていた。秋田鉱山専門学校では、レンガ造実験棟、煙突が大破したが、秋田県師範学校の被害は軽微であった。レンガ造の建物はなく木造の校舎の被害は軽微であったと考えられる。

生徒の手記では、敷地内の寄宿舎での地震時の様子を伝えており、鉱山専門学校の煙突の倒壊の様子などを知ることができる。生徒の被災地での視察行動についての詳細な記録も発見することができ、踏査行程を追うことができた。

小論では、被災をした一つの施設についての的を絞った文献調査を行った。このようなアプローチも一つの方法であると考え他の地震についても機会をとらえ文献調査を進めていきたい。

文献

- 1) 鏡味洋史・水田敏彦：1914年秋田仙北地震による秋田鉱山専門学校被害の文献調査, 歴史地震, 30, 51-62, 2015.
- 2) 秋田県：大正3年震災関係書類壱庶務課, 秋田県公文書館所蔵簿冊, 142pp, 1914.
- 3) 秋田県師範学校：創立60年（秋田県師範学校）, 281pp, 1933.
- 4) 大橋良一：大正3年の秋田地震に就て, 震災予防調査会報告, 82, 37-41, 1915.
- 5) 畑中康弘：「大地震の記」について, 秋田県立博物館研究報告, 37, 51-68, 2012.
- 6) 秋田県教育委員会編：秋田偉人叢書第2輯 石川理紀之助・森川源三郎両翁伝, 43-54, 1938.